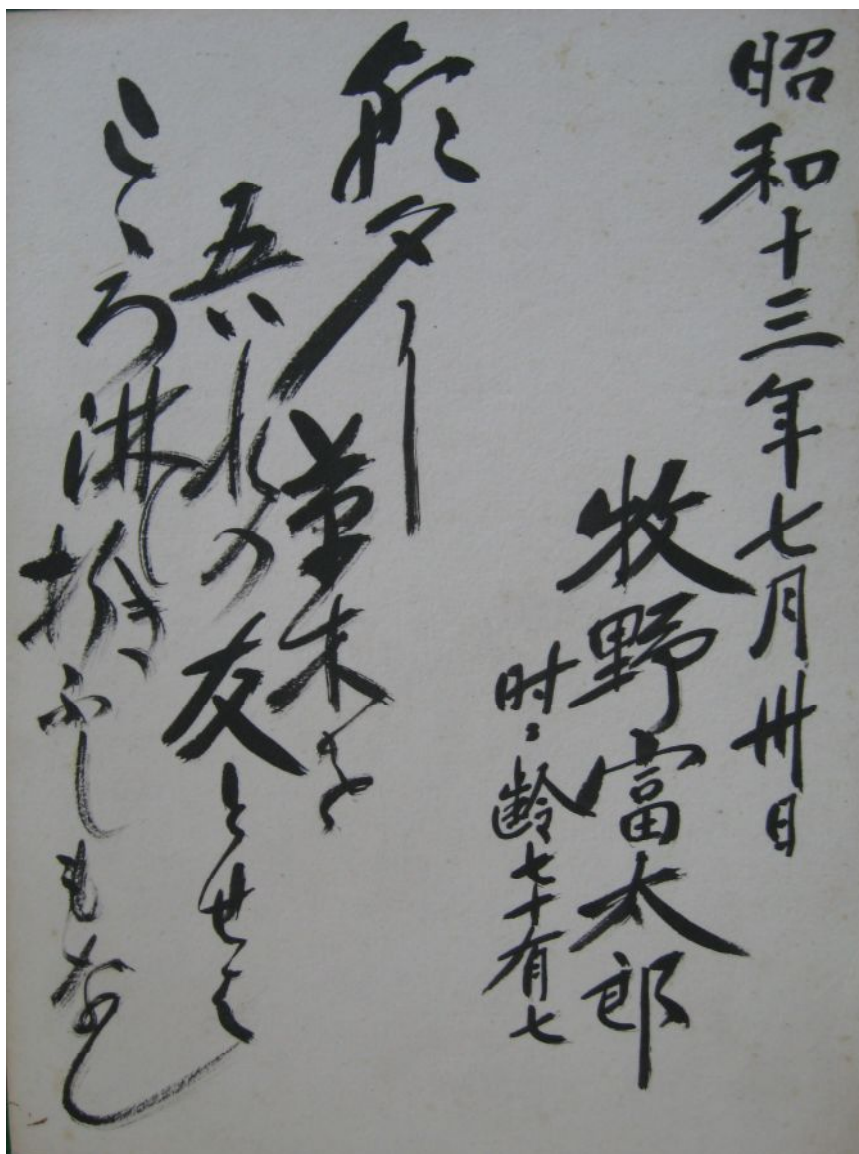


牧野富太郎 多良岳植物研究会に参加



昭和十三年七月卅日

(三七)

牧野富太郎

時二齡七十有七

朝夕に

草木を

吾れの友とせば

ころる淋しき

折ふしもなし

牧野 富太郎 1862～1957

植物分類学者

独学で植物学を修め、各地で行った植物採集の成果を『日本植物図鑑』などにまとめ、我が国の植物分類学の権威となった。死後、文化勲章を贈られた。

<記帳の和歌について>

この和歌は、『趣味の草木志』啓文社 昭和13年6月刊の巻頭「著者近影」に印刷されている。また、同書所収の随筆「ウキクサ・マコモ」の末尾(P59)にも掲載されている。

(「ウキクサ・マコモ」は『随筆草木志』南光社 昭和11年刊にも収録)

(『随筆草木志』の巻頭「筆者近影」には、“朝な夕なに草木を友にすれば淋しいひまもない”という和歌が掲載されている。)

多良岳植物研究会の記録

参考文献 『長崎県植物誌』外山三郎 著(昭和55年) P95

『高来町郷土誌』高来町 編集(昭和62年) P38

「長崎日日新聞」昭和13(1938)年7月30日

(下に新聞記事の画像があります。)

日 程 7月27日～7月28日

開会式 湯江小学校(参加者は 前泊した模様)

宿 舎 金泉寺

閉会式 黒木分教場(現大村市) 28日15:00～16:00

挨拶 牧野富太郎、外山三郎

参加者 県下小中学校植物研究会員、熊本・福岡・佐賀から 計90余名

共 催 多良地方植物研究会

長崎県教育会

東彼杵郡教育会

北高来郡教育会

牧野博士談(新聞記事より)

・ナタ折レノキ(轟滝上流に只1本ある)、筑紫石楠、黒木谷のキクタバコ・ヒメヤナギ等 珍しいものが見つかった。

・アライヌツゲ、ヒゼンアキグミ、キクバエゾスミレは、今回新たに命名した。

多良の珍植物

植物採取研究會で多數採取

牧野老博士が參加

【奥波】多良地方植物研究會に長崎縣教育會、東彼、北高兩郡教育會共同主催の植物採取研究會は東京帝大講師で日本植物

「奥波」多良地方植物研究會に長崎縣教育會、東彼、北高兩郡教育會共同主催の植物採取研究會は東京帝大講師で日本植物

加者は縣下中小學校植物研究會員を初め熊本、福岡、佐賀等より九十餘名で、七十七歳の老博士はかくしやくとして壯者を凌ぎ青年とに多良の深山を探り多

數の珍奇な植物を採取し、同夜は多良の金泉寺に一泊、二十八日午後三時より多良の麓置瀬村黒木分教場にて閉會式を行ひ會員一同を代表し女子師範外山教授の挨拶、老博士の所感談あり四時一同解散したが、同博士は語る

私も年はずつともまた元氣です。此の山で種々珍らしいものを採取しましたが、其内最も珍らしいと思つたのは

(一)ナタ折レノキです。之が私が命名したもので、實が固くてナタが折れるのでこの名をつけたのです。流球から薩摩、五島の海岸にあるモクセイに似た熱帯性の植物であります。之が熱帯のト流に只一本あることで、動物性の海岸植物がかかる山中にあることは實に珍らしく特筆すべき多良植物だと思ひます
(二)筑紫行楠は多良の名物で之は多良全體のものを保存するがよからうと思ふ
(三)黒木谷のキクタバコ、ブキ、センダイサウ、ヒメヤナギ等も珍らしいものです
尙今回新たに命名したものにアライヌツゲ、ヒゼンアキダミ、キクバエゾスミレなどがあります
因に同博士の日本名植物は數百種に上り、雲仙つじ(ミヤマキリシマ)や、諫早や玖島崎にあふ肥前まゆみの如きものも博士の命名發表されたものであると(寫眞は黒木盆に於ける閉會式場と牧野老博士)



山西軍との間に金精を奪ひ、自國に運ばせり